

学校名：上尾市立大谷小学校



氏名：松崎 奈穂

EL SALVADOR

[担当教科：全教科]

- 実践教科等：総合的な学習の時間、道徳
- 時間数：14時間
- 対象生徒：小学6年生
- 対象人数：40人(本学級)
160人(学年)

[1]単元名

ともに支え合い、ともに生きる

[2]単元の目標

- ・エルサルバドルを通して異文化への興味・関心をもち、広い視野で物事を考える力の素地を養う。
- ・日本と世界との関わりについて考えるなかで日本を見つめ直し、これからの自分の生き方について考える。

[3]単元の構成

時間	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【エルサルバドルってどんな国？】(総合) ・写真やクイズを通して、エルサルバドルについて知る。 【お買い物ゲームにチャレンジ！】 ・円以外の通貨を疑似体験しながら、エルサルバドルについて知る。	・エルサルバドルの場所や周辺の国、平均気温、主要産業、日本との時差、面積、人口、就学率、国旗に込められた想い等について、パワーポイントやクイズを通して知る。 ・写真を見ながら、現地の暮らしについて知る。 ・「お買い物ゲーム」を通して、エルサルバドルについてさらに深く知る。	・パワーポイント ・民族衣装 ・アクティビティカード ・USドルカード ・ワークシート 	・エルサルバドルについて興味・関心をもち、意欲的に活動に取り組んでいる。(発言・行動観察・ワークシート)
2	【エルサルバドルの伝統料理を作ろう！】(総合) ・エルサルバドルの伝統料理である「ププサ」を作り、味わうことにより異文化体験を行う。	・エルサルバドルの伝統料理である「ププサ」を作り、味わう。 	・ププサ材料(トウモロコシの粉、米粉、豚ひき肉、チーズ、油、塩、こしょう、しょうゆ、砂糖、チリソース) ・ワークシート	・エルサルバドルの伝統料理に興味・関心をもち、意欲的に活動に取り組んでいる。(行動観察・ワークシート)
3 4	【エルサルバドルの生活について考えよう！】(総合) ・フォトランゲージを通して、エルサルバドルの生活や、エルサルバドルと日本の類似点、相違点に気づく。	・8枚の写真をもとに、ワールドカフェ方式でフォトランゲージを行い、気づいた点を話し合う。 	・パワーポイント ・エルサルバドルの写真8枚 ・ペン8色×5本 ・模造紙8枚	・エルサルバドルの生活について興味・関心をもち、周りの友達と話し合いながら気づいたことを書き込んでいる。(行動観察・ワークシート・発表)

5	【世界がもし100人の村だったら】(道徳) ・資料を通して、「共生」について考える。	・自分にとって大切なものをダイヤモンドランキングにする。 ・資料を読み、考え、自分の作成したダイヤモンドランキングについて再度見直す。 ・エルサルバドルの子どもたちが大切にしているものを知る。 ・「ハチドリの一とすく」の範読を聞く。	・パワーポイント ・ワークシート ・資料 「ハチドリの一とすく」 ・エルサルバドルの子どもたちへのアンケート結果	・一人一人大切にしているものは異なることを知り、自分との違いを受けとめることが「共生」につながることに気づいている。 ・これからの自分の生き方について考えている。(ワークシート・発表)
6	【エルサルバドルと日本の共通点を見つけよう!】 (総合) ・エルサルバドルと日本の関係や共通点について知る。	・クイズを通して、日本との共通点について知る。 ・エルサルバドルの遊びが日本の遊びと似ていることに気づく。 ・エルサルバドルのおもちゃを実際に体験する。	・パワーポイント ・ワークシート ・エルサルバドルのおもちゃ	・エルサルバドルと日本の共通点に気づき、エルサルバドルについての興味を高めるとともに、日本の文化についても考えようとしている。 (発言・行動観察・ワークシート)
7 8 9	【日本伝統文化について調べ、体験しよう】(総合) ・興味のある日本伝統文化について調べ、それを体験することを通して、日本の良さに気づく。	・10の伝統文化の中から、興味のあるもの一つを選択し、調べ学習を行うとともに、実際に体験する。	・ワークシート	・日本伝統文化について調べ、体験することを通して、日本の良さに気づいている。 (行動観察・ワークシート)
10 11 12 13 14	【体験した日本伝統文化をまとめ、発表しよう】 (総合) ・体験した伝統文化についてまとめ、発表することで、日本伝統文化についての理解を深める。	・体験した伝統文化について自分で選択したまとめ方でまとめ、発表する。 ・単元を振り返っての感想を書き、発表する。	・模造紙 ・PC ・画用紙 ・ペン	・日本伝統文化についての理解を深めるとともに、これからの自分の生き方について考えている。(ワークシート・発表)

[4]授業の詳細

1 時間目:【エルサルバドルってどんな国?】

※この1時間目に関しては、学年の他3クラスでも、同様の授業を行った。

①パワーポイントを使って、エルサルバドルの場所、周辺の国、平均気温、主要産業、日本との時差、面積、人口(人口密度)、就学率、国旗について、子どもたちとの対話を大切にしながら紹介する。

②現地の写真を紹介しながら、次に行うクイズに関わる情報を紹介する。(クイズに関しては、ここで明言はしない)

.....
 ココがポイント!
 ☆学習の雰囲気を作るために、伝統衣装を着て授業を行った。
 ☆平均気温は、埼玉と比較することでイメージしやすいようにした。
 ☆日本との時差については、学習時の時間と照らし合わせて提示することで、より現実的に考えられるようにした
 ☆国土面積が日本の四国と同じくらいであると気づかせ、具体的に比べられるようにした。
 ☆国旗については、周辺の国々とデザインが似ていることを取り上げ、中米の歴史が関わっていることにも触れた。
 ☆アメリカへ出稼ぎに行き、家族が離ればなれになっている問題についても触れた。

～子どもたちの反応～

- ・日本車がある。
- ・物を大事にしている。
(ドアの取れた車に乗っている写真を見て)
- ・思っていたより都会。(首都の写真を見て)
- ・アメリカの企業が入っている。
(マクドナルドやピザハットのお店の写真を見て)
- ・都市部と農村部の格差が激しい。
- ・危険な国。(小学校の壁に有刺鉄線が張られている写真や窓に鉄柵が設置されている写真、武器をもった軍人が街にたくさんいる写真、親が子どもの登下校に付き添ってっている写真を見て)
- ・折り紙が上手。
- ・サッカーやバスケをしていることや防災訓練をしているのは、日本と一緒。



③〇×クイズを行う。

人口密度、季節、火山、年度開始時期、アメリカに移住する人の人数、給食、通貨について、クイズを通して知る。

【お買い物ゲームにチャレンジ！】

- ①教室に8つのブースを作り、そこにエルサルバドルの各県の特産物を示した問題文を置く。そして、その問題の答えが含まれる3つの選択肢カードを置く。答えのカードには、その答えの商品の値段が書かれている。(右の写真参照)
- ②子どもたちを8つのグループに分け、USドルのおもちゃのお金を35ドルずつ配る。
- ③スタートとともにグループで各ブースをまわり、協力して問題を解く。答えのカードと引き換えに、そこに書かれた値段の代金を、そのブースに置いてあるボックスに入れ、次のブースに向かう。
- ④すべてのグループがすべてのブースをまわったことを確認しパワーポイントを使って答え合わせをしていく。
- ⑤問題のなかに出てきた「ププサ」を次回作ることを予告し、どんな食べ物か予想させる。

ココがポイント！
 ☆本物そっくりのラミネートした US ドルを使うことで、外貨での買い物の臨場感を出した。
 ☆この活動の間、エルサルバドルミュージックを流し、楽しい雰囲気を出した。
 ☆パワーポイントでの答え合わせでは、答えの出し方に演出を加え、楽しめるように工夫した。



2 時間目:【エルサルバドルの伝統料理を作ろう！】

家庭科室において、ププサづくりを行う。事前に中身の具と生地は、こちらで用意しておいた。

～用意したもの～

- ・豚ひき肉を、しょうゆと砂糖、酒、みりんで味付けしたもの。
- ・とろけるチーズ
- ・トウモロコシの粉と米粉を混ぜたもの。
- ・スイートチリソース



ココがポイント！
 ☆偏食ぎみの子どもが多かったため、中に入れるものを子どもたちの好きな「そぼろ」や「チーズ」した。また、辛いものが苦手な子どもも多かったため、サルサソースではなく、比較的口にしやすいスイートチリに変えた。
 ☆トウモロコシの粉だけでは生地がパサパサしやすいため、米粉を混ぜ、モチモチ感を出した。子供たちからは「『おやき』に似ていておいしい！」と好評だった。
 これらの工夫から、「簡単でおいしいので、家でも作りたい」と言う声も多く挙がり、実際に家族で作って食べたという子どもも多かった。

3、4時間目：【エルサルバドルの生活について考えよう！】

- ①パワーポイントを使って、ブランクの入った写真を順次7枚見せ、そこに何が当てはまるのか、子どもたちに想像させながら、写真を読み取っていく。
- ②こうして写真を読み取っていく活動を「フォトランゲージ」ということを伝え、これからの活動についてパワーポイントを使って説明する。
- ③こちらで選んだ8枚の写真をそれぞれ1枚ずつ模造紙の中心にのり付けしたものを用意し、各グループに1枚ずつ配る。それと同時に、各グループごとに記入するペンの色を選ばせ、用意させる。
- ④フォトランゲージを始める。(時間で区切り、すべてのグループをまわるようにする)
- ⑤一周して再び自分のグループの場所に戻り、写真に書き込まれたことをもとに、自分たちが読み取ったことを発表する。

ココがポイント！
☆ブランクを使った写真は、子どもたちにとって予想外の驚きがあるものを選んだ。
☆8枚の写真は、ある程度絞ったもののなかから、学年の先生方に選んでいただいた。そうすることで、先入観をもたない視点で写真を選ぶことができたように思う。
☆フォトランゲージを行っている間、エルサルバドルミュージックを流し、楽しい雰囲気をつくった。
☆発表の際には、その写真を電子黒板に映し、聞いている人に見やすいようにした。



5時間目：【世界がもし100人の村だったら】

学校の公開授業に合わせて、3、4時間目のフォトランゲージに続き、道徳の授業を行った。総合の単元全体の流れと離れてしまうが、この資料を使って、エルサルバドルでとった「幸せアンケート」に触れることができると考え、この時期にこの授業を行うことに決めた。

ココがポイント！
☆子どもたちの発達段階と、45分という限られた時間のなかで行うことを考え、資料のなかの文章のうち大切な文章のみを抜粋したり、分かりやすい言葉に変えたりして提示した。

- ①ダイヤモンドランキングを使って、自分が大切にしているもの(こちらで9つの項目を絞っておく)をワークシートに順位づけする。
・お金 ・家族 ・勉強 ・食べ物 ・友達 ・健康 ・家 ・宗教 ・安全
- ②パワーポイントを使って、「世界がもし100人の村だったら」を範読していく。
- ③柱に沿って話し合いを進めていく。(右記参照)
- ④初めに作った大切なもののダイヤモンドランキングを見直しこの資料を読む前と読んだ後で、考え(大切なものの順位が)変わるかを確認する。(ここで、変わらなくてもよいし、変わった場合は以前に書いたものを消さず、赤鉛筆でその横に変えた項目を書かせた)
- ⑤エルサルバドルの子どもたちを対象に行ったアンケートを提示し、自分たちの価値観との類似点、相違点について話し合った。

～子どもたちの反応～

- ・家族や友達が一番大切という人がほとんどいなくて驚いた。
- ・勉強が大切といった人が一番多くて、意外だった。
- ・自然を大切にするというところは、自分と同じだった。

『話し合いでの子供たちの意見』

●「いろいろな人がいるこの村では、()がとても大切です」の文章の()に入る言葉を、子どもたちに考えさせる。

～子どもたちの反応～

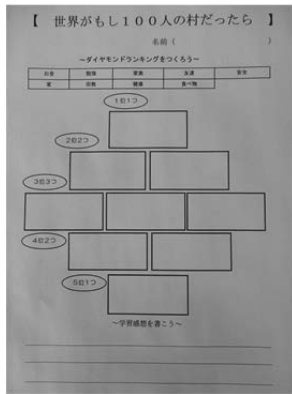
- ・住むところ(家) ・健康であること ・友達 ・食べ物があること ・家族 ・お金
- ・思いやり ・助け合うこと ・安全確保 ・お互いの考えを理解すること
- ・勉強(言葉が通じること)

●「この村を愛することを知ったなら まだ間に合います」の「この村を愛する」とは、どういうことか。

～子どもたちの反応～

- ・他の99人のことを考えるということ。
- ・その村にあるもの、自分が持っているもの、その村の人々(家族・友達)を大切にすること。
- ・自分とは違う生活をしている人のことをよく知ること。
- ・自分以外の人たちのことをよく知り、困っていたら助けること。
- ・貧しい人々に手を差し伸べること。

⑥最後に「ハチドリのひとしずく」を本を使って範読し、余韻をもたせて終わった。



6時間目:【エルサルバドルと日本の共通点を見つけよう!】

- ①3、4時間目に行ったフォトランゲージの写真を電子黒板に映し、日本との類似点や相違点についてもう一度見直す。
- ②その中から類似点として「火山」と「藍染め」を取り上げ、パワーポイントを使ってクイズ形式にしなが、紹介していく。
- ③その他の日本との関わりとして、以下のことを○×クイズにして
 - ・エルサルバドルが「中米の日本」と呼ばれていることについて
 - ・青年海外協力隊の派遣について
 - ・エルサルバドルにある日本企業について
 - ・エルサルバドルに日本人の名前がついた公園があることについて
 - ・エルサルバドルに桜に似た花が咲く木がたくさんあることについて
 - ・エルサルバドルに対する日本の援助について
 - ・日本のアニメがエルサルバドルのTVでも放送されていることについて
 - ・エルサルバドルのおもちゃが、日本の昔からのおもちゃに似ていることについて



エルサルバドルも日本も格差があることに気づいていた。



④エルサルバドルのおもちゃで遊ぶ。



7、8、9時間目：【日本伝統文化について調べ、体験しよう】(学年での取組)

- ①前時の学習で、「藍染め」を通して日本とエルサルバドルの関係について学んだ。本時では、さらに「藍染め」以外の日本の伝統文化にも目を向けてみよう子どもたちに投げかけるところから始めた。
- ②日本の伝統文化の中で10種類をこちらで選び、ボランティア団体に講師派遣を依頼。講師派遣が決定すると、子どもたちに希望をとり、どの伝統文化を体験するかを決めた。
- ③体験する伝統文化について予備知識を得るため、PC や図書室の本で調べ学習を行う。また、調べるなかで疑問に思ったことをメモし、体験当日講師の方に質問できるようにした。
- ④体験当日はそれぞれの教室に分かれ、体験を行った。

～体験した伝統文化～

・生け花 ・大正琴 ・お手玉づくり ・煎茶 ・茶道 ・折り紙 ・かご細工 ・日本舞踊 ・着付け ・押し花



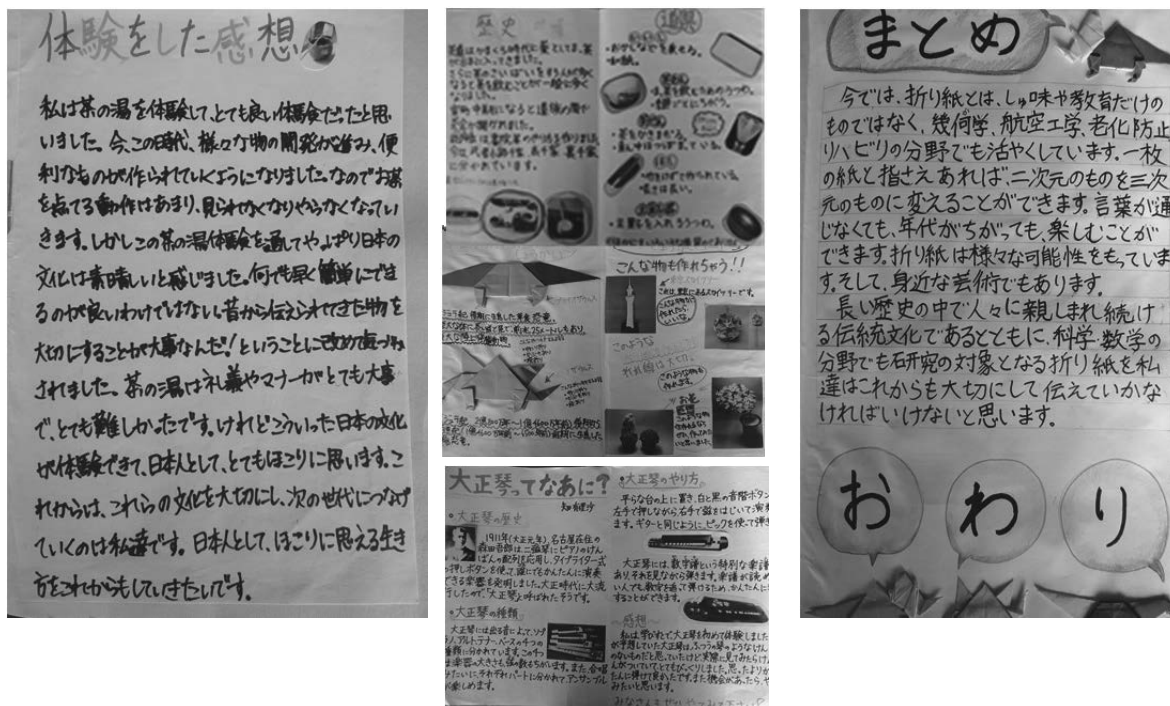
10、11、12、13、14時間目：【体験した日本伝統文化をまとめ、発表しよう】

体験したことを、自分なりのまとめ方でまとめ、発表する。

～子どもたちが選んだまとめ方～

・模造紙にまとめる。・パワーポイントのプレゼンテーション機能を使ってまとめる。・本の形にしてまとめる。

・画用紙にまとめる。



[5] 授業実践を終えて(子どもたちの反応/変化・授業実践の成果と課題)

当初、この学習を始めるまで「エルサルバドル」という国は聞いたことがないという子どもたちがほとんどだった。しかし予備知識がないからこそ、一つ一つのことが新鮮に感じられたようで、子どもたちは目をキラキラさせて活動に取り組んでいた。それは、エルサルバドルで私たちが日本文化を伝える授業を行った際に見た子どもたちの目の輝きと重なった。新しいことを学ぶ楽しさに国境はないのだということに改めて気づかされたように思う。

道徳では、子供たち自身の中での気づきが生まれるようにすることを意識して授業を行った。エルサルバドルの子供たちのアンケートのところでは、「え～！？勉強が1位なの？」と意外そうな声が上ががり、世界には様々な価値観をもつ人々がいるということに気づく上で、アンケートはとてもよい教材となった。また、話し合いの段階で子供たちから「知る・考える・行動する」の言葉が出てきたことには驚かされた。子どもたちは開発教育の理論を学んできているわけではない。しかし感覚的にその重要性を捉えていたことに感動し、子供たちのもつ可能性の大きさを感じた。大切なもののダイヤモンドランキングでは、勉強が下位から上位に変化する子供たちもいた。その子供たちは「相手をよく知るためにコミュニケーションをとって、その国の時代背景や文化、言語について知ること」が大切で、そのために勉強が必要と考えており、「勉強」に対する認識が1時間のなかで少し変わっていたことがうかがえた。

学習全体の流れは、世界に向けた目を自国に還し、学んだことをもとにこれからの自分の生き方について考えるというものであった。授業を行う上で気をつけたことは、発展途上国と言われるエルサルバドルを国際理解教育のなかで取り扱っていくことで、子供たちがその国を下に見てしまうことがないように指導案を考えるということであった。また、日本が正しくてそれ以外は間違いだという勘違いもしないよう、発問にも注意した。そのなかで難しかったのは、子どもたちの意識をいかにしてゴールまでもっていくかということだった。「知る」「考える」のところまではいいが、「行動する」というところまでもっていくことに難しさを感じたのである。ともすると、「募金する」「寄付する」という方向のみに傾いてしまうのではないかという不安がいつも根底にあった。視野を広げて物事を考えてみるなかで、やはり「援助」とは、その国に技術を提供することによってその国の自立を促すことが根本になければならないと思うのだ。表面的な一時しのぎの援助だけでは、何も変わっていかないのではないか。そういった思いから、今回のこの授業実践は「この子供たちが大きくなった時に、『行動してみよう』という気持ちになる「種」を子供たちの中に蒔く」という気持ちで臨んだ。今日明日で変わることはないけれど、今後も長期的に見て、子供たちの意識が変わっていくきっかけをこの小学校時代に築けたらと考えている。

[6]参考文献(引用文献・参考資料)

- ・「世界がもし100人の村だったら」 マガジンハウス 2001年12月11日
- ・「ハチドリのひとつしづく〜いま、私にできること〜」 株式会社 光文社 2005年11月30日
- ・世界の国を知る・世界の国から学ぶ「わたしたちの地球と未来〜エルサルバドル共和国〜」
企画・編集 財団法人 愛知県国際交流協会 2009年3月

[7]使用教材(ワークシートの一部)

6年総合学習 「ともに支え合い、ともに生きる」

単元名 エルサルバドルの伝統料理「アプサ」を作ろう！

～エルサルバドルの伝統料理「アプサ」について～

「アプサ」は、トウモロコシで作られた生地の中に、肉や野菜やチーズなどを詰めて焼いた料理で、肉と野菜の「アプサ」や、肉なしの「アプサ」など、様々な種類があります。みんなで作りましょう。

〇「アプサ」の作り方

1. 肉や野菜を切ります。トウモロコシで伸ばして糊状にします。
2. トウモロコシの糊に肉や野菜を入れて練り、1の糊状のチーズを詰めます。
3. 丸くしたあと、平らに伸ばして、両面に油を塗って焼きます。
4. 両面に油を塗って焼きます。

感想

〇「アプサ」の材料(1班 5人分)

トウモロコシの粉……100g 塩コショウ……少々
 豚肉……250g 玉ねぎ……少々
 玉ねぎ……1個 人参……1本
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個

〔エルサルバドルの伝統料理「アプサ」の作り方〕

1. トウモロコシの粉と水を加えて糊状にする。
2. 肉や野菜を切ります。糊状のトウモロコシに肉や野菜を入れて練り、糊状のチーズを詰めます。
3. 丸くしたあと、平らに伸ばして、両面に油を塗って焼きます。
4. 両面に油を塗って焼きます。

6年総合学習 「ともに支え合い、ともに生きる」

単元名 エルサルバドルの伝統料理「アプサ」を作ろう！

～エルサルバドルの伝統料理「アプサ」について～

「アプサ」は、トウモロコシで作られた生地の中に、肉や野菜やチーズなどを詰めて焼いた料理で、肉と野菜の「アプサ」や、肉なしの「アプサ」など、様々な種類があります。みんなで作りましょう。

〇「アプサ」の作り方

1. 肉や野菜を切ります。塩コショウで伸ばして糊状にします。
2. トウモロコシの糊に肉や野菜を入れて練り、1の糊状のチーズを詰めます。
3. 丸くしたあと、平らに伸ばして、両面に油を塗って焼きます。
4. 両面に油を塗って焼きます。

感想

〇「アプサ」の材料(1班 5人分)

トウモロコシの粉……100g 塩コショウ……少々
 豚肉……250g 玉ねぎ……少々
 玉ねぎ……1個 人参……1本
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個

〔エルサルバドルの伝統料理「アプサ」の作り方〕

1. トウモロコシの粉と水を加えて糊状にする。
2. 肉や野菜を切ります。糊状のトウモロコシに肉や野菜を入れて練り、糊状のチーズを詰めます。
3. 丸くしたあと、平らに伸ばして、両面に油を塗って焼きます。
4. 両面に油を塗って焼きます。

6年総合学習 「ともに支え合い、ともに生きる」

単元名 エルサルバドルと日本のつながりについて考えよう！

アプサの歴史

エルサルバドルは、中央部の山脈にあり、国土の大部分が山脈に覆われています。国土の大部分が山脈に覆われています。国土の大部分が山脈に覆われています。

アプサの歴史

エルサルバドルは、中央部の山脈にあり、国土の大部分が山脈に覆われています。国土の大部分が山脈に覆われています。国土の大部分が山脈に覆われています。

感想

エルサルバドルと日本のつながりについて考えよう！

エルサルバドルは、中央部の山脈にあり、国土の大部分が山脈に覆われています。国土の大部分が山脈に覆われています。国土の大部分が山脈に覆われています。

感想

エルサルバドルと日本のつながりについて考えよう！

エルサルバドルは、中央部の山脈にあり、国土の大部分が山脈に覆われています。国土の大部分が山脈に覆われています。国土の大部分が山脈に覆われています。

感想

6年総合学習 「ともに支え合い、ともに生きる」

単元名 エルサルバドルの伝統料理「アプサ」を作ろう！

～エルサルバドルの伝統料理「アプサ」について～

「アプサ」は、トウモロコシで作られた生地の中に、肉や野菜やチーズなどを詰めて焼いた料理で、肉と野菜の「アプサ」や、肉なしの「アプサ」など、様々な種類があります。みんなで作りましょう。

〇「アプサ」の作り方

1. 肉や野菜を切ります。塩コショウで伸ばして糊状にします。
2. トウモロコシの糊に肉や野菜を入れて練り、1の糊状のチーズを詰めます。
3. 丸くしたあと、平らに伸ばして、両面に油を塗って焼きます。
4. 両面に油を塗って焼きます。

感想

〇「アプサ」の材料(1班 5人分)

トウモロコシの粉……100g 塩コショウ……少々
 豚肉……250g 玉ねぎ……少々
 玉ねぎ……1個 人参……1本
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個
 じゃがいも……1個 じゃがいも……1個

〔エルサルバドルの伝統料理「アプサ」の作り方〕

1. トウモロコシの粉と水を加えて糊状にする。
2. 肉や野菜を切ります。糊状のトウモロコシに肉や野菜を入れて練り、糊状のチーズを詰めます。
3. 丸くしたあと、平らに伸ばして、両面に油を塗って焼きます。
4. 両面に油を塗って焼きます。